

特定非営利活動法人 丹波ひとまち支援機構

2022（令和4）年度 [第3期]

事業報告書

2022（令和4）年4月1日～2023（令和5）年3月31日



特定非営利活動法人 丹波ひとまち支援機構

2022（令和4）年度【第3期】事業報告書

[期間] 2022（令和4）年4月1日から2023（令和5）年3月31日

1. 事業概要・成果

実質的に2期目となる2022年度は丹波市市民プラザ・市民活動支援センターの指定管理者初年度となり、丹波市内における、市民活動・社会教育（生涯学習）・地域自治支援の3つの事業の柱を着実に推進しながら、市民プラザをみんなでつくり・育てる拠点として、さらに市民・団体・企業・行政や議員など多様な主体を対象とし、また連携し運営、丹波市内の地域づくりに貢献してきました。特に、丹波市市民プラザが開設後3年となり、当初描かれていた3年後の姿に照らした到達点と課題点を、関係者とともに振り返り、次の3年の目指すべき姿を明らかにすることができたことは重要な成果です。

丹波市内の自治協議会や自治会の支援については、ここ数年の懸案事項でもあった「自治協議会のあり方懇話会」を踏まえた、地域の見直し重点支援に着手することができ、丁寧に時間をかけながら、その必要性を住民や行政と理解を深め、合意形成の上、4地域で取り組みをスタートすることができました。

また、山南地域が過疎地指定されたことを踏まえた、過疎計画改定にむけては山南地域の自治協議会とともに将来を考える機会を多様な住民の参加と対話の場の工夫で実現できました。計画にそれらの住民意見が十分に反映されたとは言えず、残念ではありますが、住民にとって今後の地域のあり方を考える、見直す取り組みへのきっかけになったことは1つの成果です。

さらには、住民自治の見直しをすすめるもう一方で重要な団体自治（行政）の地域自治との関係性や行政の横連携を推進するために、丹波市行政の横断連携体制づくりに寄与し、全係長級以上の職員研修や地域支援に係る実務者の会議等の立ち上げにも貢献してきただけでなく、議会による市民との協働や対話の支援にも関わる機会にも広がってきたことは、丹波市から、中山間地域の持続可能な地域づくりに貢献することをミッションとしている当法人としては大きな進展でした。ただ、残念ながら、その後の市役所内での取り組み進捗が弱いことは課題であり、来年度も住民自治と団体自治そして、議会とも連携した、縮小する地域における住み慣れた地域で住み続けられる、持続可能な地域づくりの推進にさらに取り組んでいく必要があります。

市民活動、社会教育（生涯学習）支援の分野では、新たに加わったスタッフの専門性と関わりもあり、特に生涯学習と地域学校協働の事業を前に進めることができました。例えば、「学校を核とした地域づくりを応援するまなびの里プロジェクト」を通して、学校と地域づくりに関わる主体者間の連携・協働のきっかけと関係性づくりが進み、令和5年度の丹波市教育方針にも良い影響を与えることができました。

また、管理運営する丹波市市民プラザが文部科学大臣による「第75回優良公民館表彰」を受賞するなど社会的な評価もいただきました。合わせて、住民自治、市民活動においても基盤として必要不可欠な社会教育・生涯学習の推進が改めて大きなテーマとなっていることから、次の3年間の丹波市市民プラザ

の重要方針に掲げています。

丹波市外においても、昨年度に引き続き、多可町などの近隣市町での生涯学習事業、また朝来市や佐用町等県内でも率先して住民自治の見直しを図っている町政や地域への支援、また兵庫県地域再生大作戦の次なる展開を検討する会議にも参画し、持続可能な多自然地域プロジェクトのコンセプト・施策づくりにも貢献するなど、県内での地域づくり、そして住民自治・団体自治の見直しに貢献してきています。

調査研究事業として2年度目となる丹波「社会的つながり」プロジェクトでは引き続き、社会的つながりを生み出す取り組み・主体者間の連携交流の機会と情報収集・発信を続け、特に企業のネットワークづくりにつなぐこともできました。コロナをきっかけに始めた本プロジェクトは一定の成果と役割をもって、今年度で終了としました。昨年度の同プロジェクトの課題から新たに取り組みはじめた「市民活動を生み出すプラットフォーム創生事業」は、競争的資金を獲得でき、仕組みづくりを進めることができましたが、実装する地域の歩みと合わせることができず、仕組みづくりの段階で一旦事業としては終了することとなってしまいました。しかしながら、その仕組みは今後の丹波市内の自治協議会の重点支援の中で実装させていく予定です。他にも地域支援の現場から必要と考え、新たに「集落進路ゲーム」の作成もスタートさせ、来年度リリースするべく情報収集・整理を行うことができました。

運営体制としては、初期スタッフの退職、スタッフの働き方やライフスタイルの尊重、より多様な専門性を確保していくことなどから、当法人のような中山間地での中間支援組織のあり方について、「組織のあり方・経営の考え方 方針」をとりまとめ、来年度以降この方針に基づき、柔軟かつしなやかで1人ひとりが大切にされる、組織になるよう、体制づくりと人材育成にさらに努力していきます。

2. 事業全体像 (NPO 法上の事業区分)

*当法人は特定非営利活動に係る事業のみを行う

定款の 事業名	具体事業名	実施時期・ 回数	実施場所	受益対象者 人数のべ	事業費 総額 (千円)
(1) 地域づくり・ 市民活動支 援事業	①地域支援アドバイザー派遣事業	17回	丹波市内 朝来市内 佐用町内	各地域自治協議 会関係者・自治 体職員・社協等 540人	881
	②連携交流事業	3回	朝来市内及び オンライン	兵庫県内自治協 議会・中間支援 団体等のべ 約100人	
	③地域づくり・市民活 動実務支援事業	1回	丹波市内	自治会1件	
(2) 人材育成・生 涯学習支援 事業	①講師派遣事業	17回	丹波市内 明石市内ほか オンライン	講座・研修 参加者 約600人	1,375
	②講座・研修事業	16回	丹波市内 多可町内	講座・研修 参加者 約320人	
(3) 支援拠点管 理・運営事業	①丹波市市民活動支 援センター管理・運 営事業	通年	丹波市内	丹波市民・団体 1.2万人	25,208
(4) 地域づくり に関する調 査・研究事業	①丹波「社会的つながり」 プロジェクト	通年 講演会・ 交流会4回	主に 丹波市内	丹波市域 約100人 広く県内全国へ 情報発信	1,236
	②市民活動を生み出すプ ラットフォーム創生事業	7月～1月	丹波市内	丹波市域 関係者約10人	
	③集落調査事業	5回	佐用町 オンライン	1協議会及び 1自治体	
(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業：実施せず					

3. 事業内容

日々の具体的な事業実施の情報やメディア掲載履歴はウェブサイトで公開しています。

<https://tam-en.org>

(1) 地域づくり・市民活動支援事業

①地域支援アドバイザー派遣事業

●丹波市過疎地域持続的発展計画（過疎計画）改定を機会とした対話の場支援

- 丹波市山南地域全体及び3地域（小川・久下・和田地区）での話し合う会の支援：丹波市過疎地域持続的発展計画改定にむけた山南地域ワークショップ運営業務

[兵庫県地域再生アドバイザーとしての派遣（戸田ほか）及び丹波市からの受託]

https://tam-en.org/sannan_ws/

2022年4月に丹波市山南地域が新たに過疎地域に指定されたことをうけて、いわゆる過疎計画の改定にむけた、住民意見を反映すること、過疎指定を機に、改めて多世代で地域のこれからについて目を向け話し合う機会、今後のあり方を話し合っていくこととその支援につなぐことを目的に、「話し合う会」を各自治協議会と連携して企画、実施した。会の終了後は速やかに、計画に反映するための意見整理とともに、政策提案を市に行った。

- ・ 4月～丹波市総合政策課・市民活動課と打ち合わせ 山南4地域の自治協議会等との打合せ
- ・ 以後、随時打ち合わせ複数回、広報等協力
- ・ 小川の“未来”をみんなで話す会（6/17）参加者：35人（男性21人・女性14人）
- ・ 久下地域の“これから”をみんなで話す会（6/23）参加者：39人（うち男性26人 女性13人）
- ・ 和田の“これから”をみんなで話す会（6/24）参加者：44人（うち男性29人 女性15人）
*上久下地域は地域主体で会議を設ける意向のため実施せず
- ・ 山南全体「山南の10年度について話してみませんか」（6/28）参加者51人
- ・ 実施後7月上旬に報告書と政策提案

市民意見の計画への反映は十分とはいえず、計画策定への市民参画には課題が残るものの、話し合う会を通じて各地域での多様な世代と今度について考え、話し合っていく場の必要性への認識はでき、実際に久下地区では自治協議会見直しの重点的な支援「ミライン」に取り組むことにもつながった。



●地域自治組織のまちづくり計画推進支援

- 朝来市糸井地区：第2次まちづくり計画の推進と体制づくりの支援

[兵庫県地域再生アドバイザーとしての派遣（戸田）]

https://tam-en.org/adv_itoi/

昨年度末までまちづくり計画改定の支援に関わっていた糸井地域では、2022年4月から新たな計画に基づいた部会活動や自治協議会の事業が展開されている。一方で、計画改定時に十分に部会体制について議論ができなかったことから、今年度も計画推進会議において、自治協議会の役割について部会員と理解を深める場の講師や新計画に基づいた部会のあり方、また各部会が計画のどの項目を担当するのか等の検討の支援と情報整理を支援した。

- ・2022年度の計画推進会議及び合同部会やその打合せ会の会議運営支援、レクチャー、意見整理等の支援
計5回（6/27、7/15、1/31、2/13、2/27）と随時事前打合せ等（自治協議会／朝来市役所）

新計画の取り組み項目に基づいて担当する部会は整理できたが、部会員の参加の消極性の課題に対応した部会のあり方、部会員の選出方法などについては来年度の課題として整理し、申し送った。引き続きの支援が期待される（来年度はアドバイザー個人の事業として支援を行う予定）



●自治会からの相談対応・アドバイザー派遣

- 丹波市山南町井原自治会：自治会再編に向けた助言と再編諮問委員会支援

[兵庫県地域再生アドバイザーとしての派遣（戸田）及び市民活動支援センターによる支援等]

https://tam-en.org/adv_ibara/

人口減高齢化に対応した自治会としていくために組の再編等を検討する委員会の進め方について、自治会長からの相談を受け、検討プロセスのアドバイス、アンケートや自治会情報を整理するカルテ作成、再編委員会の進め方、議論の整理等について伴走支援を行った。

- ・自治会再編諮問委員会にかかる打合せ・アンケート集計打合せ・会議支援
計13回（6/2、6/14、7/12、7/19、7/22、7/29、10/12、10/24、11/16、12/2、12/22、1/30、3/14）
- ・自治会カルテの整理支援（6-8月）全住民アンケートの集計・分析支援（8-10月）

全住民（帰省者含め）と世帯別のアンケートによる住民や他出者の考えの把握、また自治会の行事等の総量や役の内容を見える化したことで、組再編の合意形成の根拠も整理することができ、組再編と今後の役や行事の見直しに関する委員会からの答申を委員会の住民主体にとりまとめることができた。

- その他、丹波市市民活動支援センターの支援業務として関わった自治会：青垣町栗住野 等
その他、自治会からの相談を受けて、青垣町芦田地域栗住野自治会の、自治会見直し委員会へ今後の自治会の見直しの考え方・方法等についてレクチャー（8/14）など、自治会の支援や相談に対応した。

●佐用町地域づくりアドバイザー派遣

- 佐用町三河地区「みんな活」の取り組みへのアドバイザー派遣

[佐用町からの委嘱によるアドバイザー派遣（戸田）]

佐用町地域づくりアドバイザー（戸田）として、昨年度に引き続き三河地区を受け持ち、地域づくり協議会の見直しに向けた「みんな活」への伴走支援（見直しに向けた会議の設計、会議のファシリテーション、住民アンケートの企画設計への助言等）を行なった（アンケート分析については集落調査事業に別記載）。

- ・三河地区みんな活会議（6/10） ・事前打合せ（5/26）
- ・三河地区役員打合せ（7/22、8/31）
- ・三河地区アンケート報告会（1/19） 関連して、町役場との事前打合せ等

2年間の取り組みで、コロナで思うように進まないこともあったが、アンケートや区長や若い世代も含めた将来についての意見の整理を通して、今後、自治会ごとに対応すべき課題等を整理することができた。また、これまでの地域協の成果と課題について整理することができた。町の支援としては一旦区切りとなったが、今後も見直しに向けた取り組みは継続される予定。



➤ 佐用町地域づくりアドバイザー会議への参画

[佐用町からの委嘱によるアドバイザー派遣（戸田）]

「みん活」事業の進め方についての助言や検討を行う、アドバイザー会議に参画し、三河地区の進捗を共有するとともに、他地区の進め方について他アドバイザー・町担当者と検討を行った。合わせて、来年度以降の地域づくりの方針・施策等を集中的に議論するアドバイザー合宿にも参画した。また、年に1回の取り組みとりまとめのフォーラムに参加、担当地域からの報告へのフォローを行った。

- ・アドバイザー会議（5/27、12/19）
- ・アドバイザー合宿（骨太方針会議）：コロナ対応のため、間をあけて2日間（9/2、10/30）
- ・さようみん活フォーラム2023（2/12）及びアドバイザー協議

来年度以降の佐用町政の方針として「縮充」を掲げ、戦略アドバイザーの配置、中間支援・伴走支援機能の確保など、県内でも人口減少・高齢化のさらなる進展を見据えた積極的かつ先駆的な方針・施策づくりに貢献することができた。



●その他：自治体からの依頼によるアドバイザー・委員派遣

➤ 丹波市庁内横断連携体制実務者会議へのファシリテーター派遣 [丹波市からの報酬]

丹波市における庁内横断連携体制、実務者会議の企画・運営、講師コーディネーションを担当、会議のファシリテーターを3名派遣した(10/4 及び前後の打合せやとりまとめ支援)。

会議では、島根県中山間地域研究センターから講師を招き、人口減の今後の地域でおきうること、住民自治と行政との関係について改めて考えるレクチャーをお聞きし、その後は、市内の1つの地域をモデルに、市役所の主な係や社協が地域や自治会とどのように関わっているか（補助金・依頼事項等）、どのような声を受けているかを整理・見える化し、今後の行政としての住民自治との関わり方の整理にむけた気づきを得る場とした。



参考 その他役員・スタッフが個人として関わった支援

- 姫路市地域活性化アドバイザー派遣（代表理事：戸田）
 - ◇ 姫路市高浜地区：連合自治会や各種団体の活動に ICT を活用するための導入研修や具体化の WS を講師・ファシリテーターとして支援（2回）
 - ◇ 姫路市白鳥地区：今後の地区連合自治会や自治会のあり方について話し合っていくためのスタートアップの会議・研修の講師・ファシリテーター（1回）
 - ◇ 姫路市自治会対象研修：地域づくりに ICT を活用するための講座（1回）

②連携交流事業

●三市（福知山・丹波・朝来）連携交流事業

- 令和4年度「三市連携まちづくり互近助サミット」の企画・運営支援 [3市からの受託]

https://tam-en.org/3city_2022/

福知山市・丹波市・朝来市の地域自治組織の交流・学び合いの場として、今年度も三市からの委託事業として企画・運営を支援し、「農と地域づくり」をテーマに講師（農村づくりプロデューサー 高橋信博さん）のコーディネート、会の企画・運営、会のファシリテーション等を担当した。

- ・三市の担当者との協議の促し、テーマ設定のコーディネート（夏～年末）
- ・講師調査、検討、依頼（年始）
- ・講師との打合せ（1/26）
- ・サミット当日（2/11）の企画・全体進行・ファシリテーター派遣 参加者 53 人

3地区とも関心の高い「農」をテーマとしたが、「人・農地プラン」等の農村づくりの制度の背景や、数十年取り組まれている住民が主体的に関わる農村づくりの例から、今後の自治会や自治協議会の見直し、あり方の検討についての学びとなった。サミット後実際に話し合いの場づくりへの工夫を行う地域も見られた。



●多様な主体による「対話の場」づくり [自主事業]

➤ 議会の参観日

<https://tam-en.org/media230329/>

議会を市民が集まり、傍聴し、傍聴後に議会や議題となっている政策等について意見交換、対話を行う「議会の参観日」を開催（3/17、参加者12人）

事前に議会運営委員会委員長や議会事務局とも調整した上で、予算決算常任委員会の傍聴、及びレクチャー、振り返りを実施した。参加者や議員からはこのような機会は重要という高評価もあり、傍聴後の議員との意見交換、高校生等子どもたちが参加できる場などいくつかのアイデアも出されたことから、市民の市政参加に重要な機会として、来年度も実施予定。



➤ その他

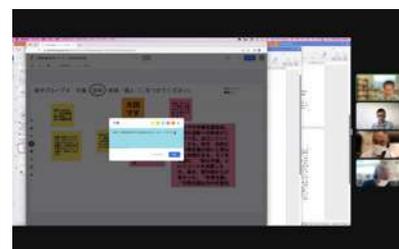
- ◇ 市民活動を生み出すプラットフォーム創生事業：別項目にて報告記載。
- ◇ 来年度にかけて、子どもの権利をテーマにした対話の場づくりを行いたいとの意向が議員から示され、別事業として相談対応し、ファシリテーター派遣や議員研修を実施した（別項目に報告記載）

●ひょうご中間支援団体ネットワークの運営 [自主事業]

➤ 世話団体（1年目）としての活動

ネットワークの世話団体を（公財）ひょうごコミュニティ財団とともに、務め（任期2年）、課題となっていた登録団体名簿の整理・確認、世話団体やネットワーク加入のルールの明文化等、基盤整備に取り組むとともに、中間支援団体アンケートを実施、今とこれからの支援事業の内容と意向を確認、整理分析した。

また、全体会を企画・運営（年2回）し、世代別の中間支援団体間の交流や、支援事業の内容ごとの相互の学びの場を提供した。来年度も世話団体として活動を継続する。



③地域づくり・市民活動実務支援事業

●自治会アンケート集計分析

➤ 丹波市山南町井原自治会

前述の「丹波市山南町井原自治会：自治会再編に向けた助言と再編諮問委員会支援」の一環として、全住民（個人・帰省者含む）アンケート及び世帯別アンケートの集計データの作成、入力レクチャー、集計分析・クロス集計等を行ない、調査報告書をまとめた。

アンケート分析結果は組再編や来年度以降も継続審議される行事や役の見直しにも活かされていく予定。



(2) 人材育成・生涯学習支援事業

① 講師派遣事業

● 自治体職員研修等への講師・ファシリテーター派遣

- 丹波市庁内横断連携体制にむけた職員研修へのファシリテーター・アドバイザー派遣 [丹波市からの報酬]

https://tam-en.org/staff_training220714/

丹波市市民活動支援センター事業で進めている自治協議会のあり方見直し重点支援（ミライン）を進める上で、行政も庁内横断体制を組んで、住民自治との関係性、依頼事項や支援内容を見直していくことが必要であることから、市に政策提言をし、丹波市庁内横断連携体制（幹部会議・実務者会議）が立ち上げられた。

その立ち上げに際しての全係長級以上の市職員研修の企画・講師コーディネート・研修の進行を行い、参加職員の感想等の取りまとめをおこなった。

- ・企画設計・講師等への依頼調整、市民活動課との協議（4-7月）
- ・「これからの地域自治支援と市役所の横断体制構築にむけた職員研修」の実施、進行、ファシリテーション（7/14 2時間強、参加者を2部に分けて実施 参加者約200人）
講師：作野広和さん（島根大学教育学部教授）
谷本美沙さん（佐用町企画防災課まちづくり企画室室長補佐）
- ・事後感想等のとりまとめ（7-8月）及び幹部会議・実務者会議への展開についての市との協議

全係長級以上が集まる市職員研修はこれまでもほとんどなく、これからの人口減少・高齢化を見据えた地域のあり方、行政職員としての課題等の認識を深める、理解する機会（感想等からも前向きな受け止めが多かった）となった。以後の幹部会議、実務者会議の開催へとつながったが、その後は庁内での動きが鈍化し、進展がないことは課題、今後の進捗を引き続き提言していく。



※ 以後に開催された実務者会議については、前述の「丹波市庁内横断連携体制実務者会議へのファシリテーター派遣」に記載の通り。

- 丹波地区公民館連絡協議会地区別課題研究会への講師派遣 [協議会からの報酬]

https://tam-en.org/tamba_kominkan/

丹波地区（丹波市・丹波篠山市）の公民館担当職員を対象とし、公民館活動・講座等でのICTの活用をテーマにした研修講師を担当した（2/9 参加者：11人）。

公民館担当職員でもオンライン会議システム含め、基礎的なICTツールについてのリテラシー向上が求められていることが課題として改めて明らかになった。



●市民活動団体等を対象とした研修への講師派遣

- JVCC 研究集会への講師派遣

<https://tam-en.org/jvcc2022/>

JVCA（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会）が主催するJVCC2022（市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会）の実行委員会に参画し、公開プレ企画において、丹波「社会的つながり」プロジェクトの事例報告、また集会当日の分科会において、事例報告講師として参画した。

- ・実行委員会に参加（4回程度）
- ・第3回実行委員会兼公開プレ企画にて事例報告（6/19）
- ・JVCC2022分科会B4「地域を基盤にした協働のネットワークづくりを進めよう-実践事例から考える、地域のこれから」にて事例報告（12/18 参加者29人）

当法人の中間支援のスタンスや事業、つながりプロジェクトについての成果や課題等について他のコーディネーターから評価や感想を受けることができ、今後の事業展開の参考ともなった。

B4
分科会1部

地域を基盤にした協働のネットワークづくりを進めよう
～ 実践事例から考える、地域のこれから

地域社会をベースに、多様な市民・住民団体やNPOなどが連携して、市民・住民が主体となって、地域の課題を解決し、豊かな地域の暮らしを創造していく一多々の地域で、その機軸が進んでいます。しかし地域には、多様な歴史と特色をもつ既存組織がそれぞれに活動を積み重ねています。いずれも自団体の運営に追われ連携などを余念もないなど、その懸念は容易ではありません。この分科会では、このテーマに取り組む実践事例を共有し、多様な地域で、その地域にあった展開を進めるための鍵を探りました。

登壇者

事例発表者 戸田 幸典さん（丹波ひとまち支援機構 代表理事）
 東原 穂子さん（ほらんたす 理事）
 コメンテーター 竹塚 寛さん（兵庫県立大学 環境人間学部 准教授）
 全体進行 村瀬 健さん（共創プラットフォーム）
 プログラム進行 早瀬 祥さん（大阪ボランティア協会 理事長）

タイムスケジュール

09:30 開会、趣意説明、登壇者紹介、スケジュール説明
 09:35 事前アンケートの紹介（ほらんたす・佐藤美恵さん）
 09:45 グループ協議①「みんなのモヤモヤを共有する？」
 10:05 グループディスカッションの共有
 10:15 事例紹介① 戸田さん・丹波ひとまち支援機構
 10:50 事例紹介② 東原さん・ほらんたす
 11:25 7分休憩後、質疑応答/竹塚さんから深掘り質問
 11:50 グループ協議②「これからどうする？」
 12:05 グループディスカッションの共有
 12:20 セルフワーク「モヤモヤがどう変わった？」
 「田日からの視察」をスプレッドシートで共有
 12:25 登壇者・コメンテーターのコメント
 12:30 終了

参加者数
29名
内訳：会場9名、オンライン20名

●学校への講師派遣

➤ 兵庫県立氷上高校への講師派遣 [氷上高校からの報酬]

兵庫県立氷上高校の授業に出講、地域の仕事を知るという趣旨の授業において、市民活動支援センター・市民プラザの概要と、地域の現状・課題についてレクチャーした(11/11)。

➤ 丹波市立東小学校への講師派遣 [丹波市教育委員会からの報酬]

丹波市立東小学校6年生国語授業(まちの幸福論)に今年度も出講し、1学期に授業を行い、まちづくりにとっての調べること・話し合うこと・伝えることのコツを学んだ上で、夏休みの調べ学習を踏まえて、2学期の実施された中間報告授業で各班の報告に個別にアドバイスを行った。

- ・担当教諭との事前打合せ
- ・1学期授業への出講(7/11 90分 6年生約40人)
- ・2学期授業への出講(12/1 90分 6年生約40人)
- ・学年末のまとめ等への状況フォロー

本授業は総合学習の要となる教材であるとともに、今年度、東小学校は探求の指定校であり、1年を通じて他の科目との連携も図りながら進めようとされたが、コロナの影響もあり、学年末のまとめは発表等の機会がなかった。今後も教育委員会等へ地域学校協働の視点も含めて小学校高学年から中学生にかけて行われる地域学習・起業学習等と合わせた授業のあり方等を提案、関わりを設けていく。評を行った。



●講演会等へのファシリテーター派遣

➤ 丹波市議会子どもの権利理念条例調査特別委員会講演会へのファシリテーター派遣

市議会主催「こどもの自己肯定感を育む講演会」(2/4 参加者約100人)の講演後の参加者によるグループでの対話の支援のために議員のほか、たんえんからファシリテーターを3人派遣し、対話の場の支援を行った。

本条例は市民との対話のプロセスを重視し策定されることから、当法人としてもそのプロセスの重要性に共感し、対話の支援を、議会と連携して行ってきた(本講演会前には議員向けのファシリテーション研修も実施:後述)。来年度もいくつかの場面で支援を行っていく予定。



●地域支援者対象の研修への講師派遣

- ムララボ（地域自治組織を支援する人のための講座）実行委員会への参画・ムララボフォーラム講師派遣 [自主事業]

<https://tam-en.org/muralabo03-2/>

一昨年度から県内の地域支援者有志とともに実行委員会を組織しているムララボに参画、今年度は改めて地域支援とは何かをディスカッションすることが重要なタイミングであると考え、フォーラムの企画に参画し、運営、ディスカッションメンバー・ファシリテーターを担当した。フォーラムは明石市にて開催、オンラインを含め全国から約50人が参加。「これからの地域支援の本質に向き合う」をメインテーマに3つの論点でゲストと参加者とともに議論した。（当法人から研修として2名が参加、1名が実行委員として参加）

なお、講座のウェブサイトドメイン取得・メールサーバー契約、管理を法人で担当した。

- ・ムララボフォーラム【ムララボフォーラム～これからの地域支援の本質に向き合う～】(2/5)
- ・企画段階で数回の実行委員会、企画運営事務のための個別打合せを実施



●審議会等への委員派遣

- 丹波市行政の各種委員会への委員派遣・審議への参加
 - ・ 丹波市男女共同参画推進審議会へ丹波市男女共同参画推進計画の改定にむけた審議を主とした審議会委員に委嘱（足立美樹）を受け、計画策定の審議や検討に参画した。
 - ・ その他、管理運営を担う丹波市市民活動支援センターから、丹波市ボランティア・市民活動センター運営委員会へ委員を派遣していたが、会議は運営者側都合で開催されず。
 - ・ 丹波市地域福祉計画推進協議会、丹波市まなびの里づくり協議会、丹波市社会教育委員の会議にスタッフそれぞれ個人の立場で委員として参画した。
- 丹波市における「地域から考える学びの未来会議（ミラカイ）」への参加
 - ・ 今年度よりコアメンバーとして参加し、2024年1月に開催が決まっている「学びの未来サミット」の企画や丹波市内の学びの人材マップづくりを進めている。（第8回1/12,9回3/16）
- 東播磨生活創造センター「かこむ」審議会（3/16）に中間支援及び施設管理者の立場で参画した。
- 多可町生涯学習まちづくり委員会にスタッフ個人が委員として参画した。

参考 その他役員・スタッフが個人として関わった支援

●学校への授業支援

- ◇ 県立柏原高校カリキュラム開発専門家として、高校の授業・地域連携に従事（一宮）
- ◇ 丹波市立南小学校「まちの幸福論」授業のゲストティーチャー（蔦木）

②講座・研修事業

●学校を核とした地域づくりを応援するまなびの里プロジェクト [自主事業・助成金活用]

<https://tam-en.org/manabipj1/> 他

➤ 学校を核とした地域づくり交流会／講座

市民が中心になった地域課題の解決に活かす学びの場づくりとして、今年度は、「子どもと大人と共に地域を考える学び」をテーマに、学校協働活動に関わる人々の連携を深めるとともに、地域学校協働活動を地域住民や市民に周知し、その活動のすそ野を広げるため、交流会と連続講座を実施した。

- ・交流会「丹波市立南小学校の地域学校協働活動 これまでとこれから」実施（7/24 参加者 23人）
- ・学校を核とした地域づくり講座実施（全3回）
 - 「地域と学校の連携・協働によりもたらされる効果」（講師：岸裕司氏）（9/10 参加 23人）
 - 「人づくり、地域づくりのための地域と学校の協働」（講師：福田範史氏）（10/15 参加 23人）
 - 「“楽しく”連携・協働していくためのコツ」（講師：西川正氏）（11/12 参加者 19人）
- ・ふりかえり交流会「子どもも大人も、学び合い、育ち合う地域になるために」（2/19 参加者 35人）
- ・企画にあたっては随時丹波市教育委員会、まちづくり部と協議・調整

講座と交流会によって、教職員、住民、市民活動団体、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、社会教育委員、自治協議会役員、行政職員、市議会議員等多様な主体が参加し、地域学校協働活動の周知と取り組む主体の増加、連携の機会をつくることができた。行政内部での連携を進める機会ともあり、来年度の教育施策の重点目標に「学校を核とした地域づくり」が位置づけられた。引き続き来年度もプロジェクトを継続していく予定。



●TAMBA シニアカレッジ企画・運営支援 [丹波市からの受託]

https://tam-en.org/tamba_senior2022/

➤ TAMBA シニアカレッジテーマ別講座等のコーディネーション

高齢者を対象にこれまで行われてきた同カレッジの教養講座について、知識循環型生涯学習をさらに推進するため、テーマ別講座、開講式・閉講式の企画・コーディネートを行った。

- ・開講式「テーマ別講座のすすめ」(7/29)の企画支援・講座紹介 約30人
- ・テーマ別講座A「環境に優しい暮らし」第1回実施(9/16) テーマ別講座各6-7人
- ・テーマ別講座B「学びと生きがい」第1回実施(9/23)
- ・テーマ別講座A「環境に優しい暮らし」第2回実施(10/14)
- ・テーマ別講座B「学びと生きがい」第2回実施(10/21)
- ・テーマ別講座第3回実施(A・B合同)(12/7)
- ・閉講式「テーマ別講座の振り返り」を実施(12/23) 約30人

テーマ別講座の実施により、これまでのカレッジにはなかった少人数による話し合いによる学びを体験してもらうことができた。カレッジができてから毎年通われている方、定年を迎えて新たにやることを探しているという方など、積極的に前向きな方が参加。第3回では「TAMBA シニアカレッジで楽しく学んでいくために何があったらいい？」をテーマに生涯学習係の職員も交えて意見交換を行った。今後のTAMBA シニアカレッジの運営の参考になる意見も出されたので、今後の運営に活かされることを期待する。



●多可町 令和4年度まちづくり連続講座の企画・運営・講師 [多可町からの受託]

https://tam-en.org/taka_kouza2022_2/

➤ 『地域の「会議」をよりよくするための連続講座～みんなが話せる・参加できる地域づくりに向けて～』及び昨年度受講者フォローアップ講座の企画・運営・講師

多可町の生涯学習事業の1つとして、今年度もまちづくり連続講座を受託、昨年度好評かつ3年間は継続し実施していくとしているテーマ『地域の「会議」をよりよくするための連続講座～みんなが話せる・参加できる地域づくりに向けて～』を企画・運営・講師、広報媒体デザインを担当した。

さらに、今年度は新たに、昨年度受講者のためのフォローアップ講座として、昨年度の学びを

実際に普段の会議で実践した経験をもとに課題や悩みについてお互いに助言し合う場を開催した。

- ・ 5月～企画、広報媒体作成
- ・ フォローアップ講座（7/9 受講者：10人）
- ・ 第1回：座学）地域づくりのための「会議」が大切な理由とは？、WS）日頃の会議ってどんな会議？良い会議・悪い会議とは？（7/16）
- ・ 第2回：WS）いろいろな会議を体験しよう、座学）より良い会議にむけた、話し合いの工夫や改善方法、WS）会議の企画と準備（7/23）
- ・ 第3回：WS）学んだことを生かして、実際に会議を運営してみよう、座学）学びのまとめ・今後に向けて（8/6） 連続講座受講生：9人+市担当者

今年度は開催日程等の都合や昨年度定員を超える受講もあり、受講生の確保に苦勞し、10人弱での開催となったが、講座内容は昨年度同様、地域や職場での会議で活用できるノウハウを学べたとの評価をいただいた。成果や反応も踏まえて、次年度も計画どおり同テーマで開催方法等に工夫し実施する予定となった。



●丹波市議会ファシリテーション研修【丹波市議会からの受託】

➤ 丹波市議会対話の場づくりファシリテーション研修

https://tam-en.org/gikai_kensyu2022

前述の丹波市議会子どもの権利理念条例調査特別委員会により対話を重視して進められている条例策定に向けて、市議会議員が市民との対話の場をうまく運営できるよう、ファシリテーションスキルを高めるための1日研修を企画・講師も担当した（1/18 参加議員 10人）。実施にあっては特別委委員会の議員、議会事務局の事前相談に対応し、また事後に予定されていた講演会後のグループワークのファシリテーターとしてもフォローした（前述）



議員との関係性構築、また市民との対話の重要性とそのための技術についての理解を促すことができた。その後の2/4に開催されたフォーラムでのグループワークでもファシリテーターを務めていただき、それぞれに工夫をし、市民との対話を促進する姿が見られた。

(3) 支援拠点管理・運営事業

①丹波市市民活動支援センター管理・運営事業【丹波市 指定管理事業】

<https://www.tamba-plaza.jp/>

詳細は「2022 年度丹波市市民プラザ・市民活動支援センター指定管理業務報告書」に記載
(閲覧は法人までお問い合わせください)

<p>市民活動支援センター運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●受付管理業務：フロア利用 11,747 人 (38 人/日)、チラシ受付 431 件 ●施設利用件数：399 件 ●フロア管理業務：サイネージ、市民プラザ内サイン作成、感染症対策、チラシ配架、ポスター掲示等 ●市民プラザ全体会議 (入居するセンター・団体の会議) の企画・運営：3 回 ●表彰等：文部科学省第 75 回優良公民館表彰受賞
<p>市民活動団体・イベント等情報の収集・発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●情報誌『tamtam』：第 16 号～第 21 号発行 ●講師紹介・派遣：8 件 (スポーツクラブ 21 氷上東、東小学校、氷上高校等) ●市内外先進事例視察：10 月鳥取県・島根県へスタッフ視察研修他、関連する研修への参加・講師して参加 ●補助金情報の収集：年 4 回まとめて配信 ●市民プラザからの情報発信： <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト更新 (更新 138 件)、SNS (フォロワー数 534)、新聞アーカイブ 744 件、ステークホルダー (登録件数 540 件*公共施設等除く)、図書の充実 (77 冊追加)、ダイレクトメール (年 8 回)、アウトリーチでの情報収集・提供 ●登録団体特別展示 4：団体、自治協議会等情報誌掲示：22 地域 ●ラジオによる情報発信：第 37 回～第 60 回 番組再編の検討 (4 月から改編)
<p>各種相談への対応及び専門的な支援会議の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●相談対応：837 件 (2.7 件/日) 法人化や自治会の見直し等の継続相談対応や出張相談等の他、地域学校協働等センターで相談できることを PR する媒体の作成 等
<p>交流事業の開催、マッチング及びコーディネート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●サロン事業：若者サロン 1 回 ●地域づくりに関わる企業ネットワークの組成 (通称はまころ) と定例会 3 回 ●各種機関や関連部署等との交流連携・マッチング・コーディネート <ul style="list-style-type: none"> 水分れフィールドミュージアムからの提案・連携で、SDGs ゲームの検討への参画、地域支援において丹波市社協支え合い推進員との連携、トライやるウィーク中学生 2 人の受け入れ、市役所庁内横断連携体制づくりへの支援等 ●センター運営への市民参加・利用者とのコラボレーション <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートの実施・分析、来館者 33,333 人記念、ごちゃまぜプレイスメイキング (エントランス装飾づくり、座ぶとんづくり)、丹波市少年少女合唱団 クリスマスコンサート、おたのしみ会 (ボードゲーム等で交流) の企画・利用者との連携開催、センターと市民プラザをよりよく・楽しくする市民会議として、開設から 3 年を振り返り、これからの 3 年を話し合う会の開催 (参加 53 人) ●丹波市からの相談・連携 <ul style="list-style-type: none"> 丹波市庁内横断連携体制づくりにむけた職員研修等への支援等

	<ul style="list-style-type: none"> ●調査・研究 研修参加、新聞アーカイブ、丹波「社会的つながり」PJプロジェクトの連携実施、関係する審議会等への参加・情報収集（社会教育委員、シニアカレッジ、ボランティア市民活動センター運営委員会、男女共同参画審議会、地域福祉計画推進協議会）
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●センター地域づくり講座ちいきの豆ぢから：4テーマ6講座開催 ●市民活動支援センタースタッフ育成の研修 ●学校を核とした地域づくりを応援するまなびの里プロジェクト（再掲） ●令和4年度 TAMBA シニアカレッジテーマ別講座企画・運営支援（再掲） ●これからの地域自治支援と市役所の横断体制構築にむけた職員研修（再掲） ●丹波市議会議員対象ファシリテーション研修（再掲）
団体運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ●アウトリーチによる市民活動団体支援：訪問数 77 回 相談対応：主に法人化や法人実務の相談・研修等 ●地域支援： <ul style="list-style-type: none"> ・スポット支援として、自治協議会各地への定期訪問や相談対応 ・全体支援として、全自治協議会対象の全体研修の実施（3/14） ・重点支援として、自治協議会の見直しに向けた通称ミラインについて 25 地域個別訪問や説明、また取り組み意向がある地域への複数回の説明や議論の支援（遠阪・鴨庄・佐治・久下）4 地域での地域と住民自治の見直しに向けた3年間の取り組みの伴走支援を開始 ・自治会支援として、自治会の見直しの支援（山南町井原自治会、青垣町栗住野自治会等）
政策提言	<ul style="list-style-type: none"> ●行政計画策定プロセスにおける市民参加の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・パブコメミーティング:9 計画で実施（議員定数・報酬等調査特別委員会報告書（案）、「丹波市観光・商工業振興ユニティプラン（案）等」 ●パブコメ等ガイドラインをもとにした：計画策定・改定部署との協議や理解促進のための訪問支援（次年度計画策定予定部署含む）
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ●丹波「社会的つながり」プロジェクト（再掲）
丹波市市民プラザ大交流会 2022	<ul style="list-style-type: none"> ●企画実行団体からの市民参加：企画・実行委員会の組成（つくるう会） 委員：約 10 人、会議 6 回、その他準備会等への参加 ●来場者：約 250 人 ●出展等団体：15 団体ほか、実行委員が各種企画を実施 ●メイン参加企画：みんなでドミノ（設置に数十人が参加、ドミノをつなぐツナギスト 25 人、ゆめタウン内を走る 50mのドミノ）



(4) 地域づくりに関する調査・研究事業

①丹波「社会的つながり」プロジェクト [自主事業・助成金活用]

<http://tamba-tsunagari.net/> https://tam-en.org/2022tsrp_4kouryu/

➤ 丹波「社会的つながり」プロジェクト第2期

ひょうごボランティア基金から引き続き助成金を受け、賛同者からの寄付金とともに、交流会、事例調査、プロジェクトを締めくくる講演会&交流会開催した。

- ・第1回交流会開催 テーマ「高齢者とのつながり・見守りのために、私たちにできること」(6/25 参加者：25人)
- ・第2回交流会開催 「セミクローズドの場として、丹波市域で社会的つながりに関連する主体者の交流・連携の場づくりをしている団体間の連携の場」(9/29 参加者：24人)
- ・第3回交流会開催 テーマ「つながりによってこどもたちの育ちを丹波で豊かにするためには」旧芦田小学校で開催(1/29 参加者：36人)
- ・講演会&交流会開催 テーマ「『丹波で「つながり」を生み出すために必要な連携のあり方』～ほんまもんの連携をみんなで考え・話しましょう～」講師：竹端寛さん 兵庫県立大学環境人間学部准教授(2/25 参加者：27人)
- ・丹波市域の取り組み情報収集・ポータルサイトへの掲載

プロジェクトは今回で一旦終了とし、主体者間の交流は別の同類の場に参画することとし、プロジェクトの成果と課題は、後述の「市民活動を生み出すプラットフォーム創生事業」の今後の展開につないでいくこととした。



②市民活動を生み出すプラットフォーム創生事業 [自主事業・助成金活用]

昨年度の調査研究から見えた丹波市域におけるテーマ型で地域に新たな価値創出や課題解決に取り組む「市民活動」の少なさを踏まえ、丹波市内の課題等を具体的に取り上げ、マルチステークホルダーで課題整理、対応策・活動を見出す地域円卓会議を開催、具体化される事業に対して、コミュニティ財団と連携した寄付による支援の仕組みづくりにチャレンジするとし、コープともしびボランティア振興財団の助成採択を受けて取り組みを進めた。

円卓会議を開催する地域や課題設定のための前準備を自治協議会の見直し重点支援（ミライン）の進捗、「社会的つながり」プロジェクトの進捗と合わせながら調整を行い、連携するファシリテーターやひょうごコミュニティ財団との連携協議や企業ネットワークの組成など本事業実施体制を整えた。一方、実施する地域・課題選定が地域の歩みや状況と合わないことから、

一旦休止することとし、助成財団にはその旨を報告し、進捗分の助成金を支給いただいた。本事業で整えた体制は来年度以降の地域支援の中で実施していく予定とする。

③集落調査事業

- 佐用町三河地区 全住民アンケート調査 [佐用町からの報酬]

https://tam-en.org/adv_mikawa/

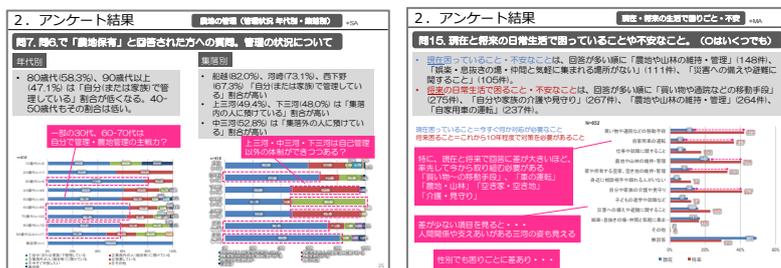
佐用町地域づくりアドバイザーとして支援に入っている三河地域づくり協議会主体の全住民アンケートの集計を踏まえた、クロス集計・分析、今後の課題整理を行った。

調査から見える地区の特性や課題として、【地区全体で、集落で、農地について考える・話し合う必要性】【地域のこれからについて誰とどう話し合うべきか】【若者も女性も参加できる地域協・自治会へ】等について、報告会で提案共有した。

【調査概要】

- ・実施目的：令和3年度よりスタートさせた三河地区「地域づくり協議会 振り返りの取り組み」では、平成21年度に策定した「三河地域まちづくり計画」の5年・10年先を見据えた計画の検討にむけ、地域住民の声を把握し、検討に反映する。
- ・実施時期：2022年10月5日～10月31日（配布～回収）
- ・対象：三河地域に住む高校生以上の個人709人
（参考：2022年9月末日時点 人口893人/18歳未満含む）
- ・回答者数：652人（回収率：91.96%）
- ・配布回収方法：各隣保長または自治会長まで提出

調査結果の活用等はアドバイザー派遣事業の項目に記述したとおり。



- 兵庫県地域再生大作戦新たな事業展開検討会 [兵庫県からの検討会委員報酬]

<https://tam-en.org/hyogodaisakusen/>

兵庫県地域再生大作戦のこれまでの評価、昨年度実施された小規模集落元気度調査の結果等を踏まえた、今後の兵庫県の多自然地域を対象とした施策や事業について検討する会議に、中間支援組織の代表の1人として参画。数回の検討会等を通じて、来年度からの「持続可能な多自然地域プロジェクト」の制度や施策設計に携わった。

- ・ 検討会全4回に出席・検討に参画（4-8月）
- ・ 整理された施策方向性
『体制・取組を共に「点」から「面」の新ステージへ』を基本的な考え方に、今後10年の多自然地域づくりを、従来の「単発・部分的モデル」から「持続可能な生活圏形成型」支援にシフト。支援エリアの拡大(都市部)、地域運営単位の広域化、県・市町の重層支援体制の整備に取り組む

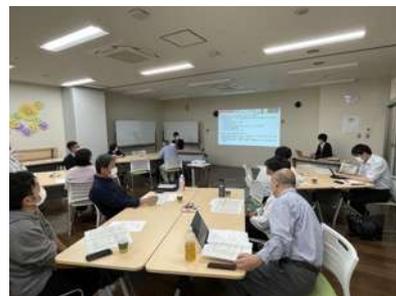
- 兵庫県丹波県民局「持続可能なコミュニティプロジェクト」の相談対応
県民局からの相談対応、具体的な手法を提案したが、年数回の会議等を行う方法で進める説明を受け、当法人も今年度はプロジェクトの委員には参画していない。
- 兵庫県丹波県民局「ユースサポートチーム」メンバーへの参加
県民局ビジョンの各プロジェクトに関わるユースチームをサポートするチームメンバーに参画。
- 丹波の森協会・丹波の森研究所との意見交換・連携構築の場
地域支援や市民活動支援において、調査研究領域で連携が不可欠な、両組織の研究員や事務局と相互情報共有の場を初めて設けた。
- 兵庫県立大学竹端ゼミ「コミュニティワーク研究会」に参加。社会福祉協議会生活支援コーディネーターや中間支援組織等のメンバーとともに、4回の研究会で地域づくりと地域福祉両輪での地域支援について理解を深めた。

4. 事業実施体制（法人運営・管理業務）

(1) 機関会議

①通常総会

- ・ 2022年5月27日（金）19時00分～20時15分、丹波市市民プラザ会議室及びzoomにて通常総会を開催した。
- ・ 出席正会員20名（委任表決、書面表決者含む）とオブザーバーとして賛助会員3名の出席により成立し、「2021（令和3）年度事業報告及び決算（案）」及び「役員報酬支払い額」を承認し、「令和4-5年度の役員」を選任した。
- ・ 総会后、会員交流会を開催した。



<https://tam-en.org/2022soukai/>

②理事会

- ・ 計画通り、年4回開催した。概要は次の通り。

回	日時・場所	出欠	議決事項
第1回	2022年5月11日（水） 10時～12時 @丹波市市民プラザ会議室 及びzoom	出席理事 7名中6名 出席監事 2名中2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021（令和3）年度事業報告及び決算（案）について ・ 2022（令和4）年度事業計画及び予算補正（案）について ・ 2022（令和4）年度通常総会議案について ・ 役員からの借入金について
第2回	2022年9月29日（木） 19時～21時30分 @丹波市市民プラザ会議室 及びzoom	出席理事 8名中6名 出席監事 2名中2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に無し ・ 事業進捗や体制について協議
第3回	2022年12月27日（火） 19時～21時30分 @丹波市市民プラザ会議室 及びzoom	出席理事 8名中8名 出席監事 2名中2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に無し ・ 事業進捗や体制、来年後事業について協議
第4回	2023年3月28日（火） 19時～21時30分 @丹波市市民プラザ会議室 及びzoom	出席理事 8名中6名 出席監事 2名中1名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023（令和5）年度事業計画（案）及び予算（案）について（関連）役員報酬支払い額について ・ その他、決算見込みや事業進捗について協議

③事務局会議

- ・ 運営する丹波市市民活動支援センタースタッフミーティングと兼ねて、毎月開催した。ミーティングには会議運営の OJT や市民活動・地域づくり、ホスピタリティ、人権等に関するスタッフ研修を毎回行なった。またランチは丹波の食材やお店情報を知る機会とし、担当を決めて調達し、スタッフ全員で一緒に食べる機会とした。

回	日時・場所	研修内容（会議内容は非公開：割愛）
第1回	2022年4月4日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・会議運営（アイスブレイク・レコーディング等）OJTのみ
第2回	2022年5月9日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・生涯学習と社会教育（新スタッフの実績紹介）
第3回	2022年6月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・子ども食堂を例に相談対応・助言ロールプレイ
第4回	2022年7月4日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・過疎計画を機会としたWSを踏まえた政策立案研修
第5回	2022年8月8日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・丹波市の人権施策について（外部講師）
第6回	2022年9月5日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・文章作成、ライティング研修（外部講師）
第7回	2022年10月3日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・ホスピタリティワークショップ（外部講師） ・地域伴走支援とは何か一島根の例から（外部講師）
第8回	2022年11月7日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・早朝雲海登山チームビルディング（任意） ・地域支援のファシリテーション（外部講師）
第9回	2022年12月5日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・蔵書の紹介～活用PR
第10回	2023年1月9日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・丹波市の図書館事業（外部講師）
第11回	2023年2月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・ウェブサイトの仕組みと市民プラザサイトの改善
第12回	2023年3月6日（月）10時～18時 @丹波市市民プラザ	・会議運営（アイスブレイク・レコーディング等）OJTのみ



(2) 事務局体制

- ・ 新規雇用スタッフ：5月1日に新スタッフ1名を迎え入れ、7月末日で2名が退職したことに伴い、公募した結果8月1日に新スタッフ1名を迎え入れた。下半期からは事務局長に一宮を選任し、運営体制の強化を行った。事業拡大に伴い、事務局を支える事務スタッフを複数回募集したが良いご縁がなく、年度末時点で採用者はいない状況となっている。年度末には療養していたスタッフ1名が退職となり、改めて新年度から事務メインのスタッフを募集する計画である。
- ・ 雇用契約を結ばないが事業ごとにスタッフとして参画する3名のサポートスタッフがワークショップや情報誌デザイン等に携わった（専門性：デザイン/ファシリテーション/グラフィックレコーディング/プロジェクトマネジメント）。
- ・ インターンシップによる研修と業務従事を希望する高校3年生1名を受け入れ、内容によって報酬を支払った（12月～2月末まで）。
- ・ トライやる・ウィークに氷上中学校2年生2名を受け入れた（主に市民活動支援センターお楽しみ会や子育て学習センターのサポート等）

(3) 会員・支援者、ネットワークの拡大

①会員交流会

- ・ 通常総会開催に合わせて、総会後に交流会を開催した。

②現会員とのコミュニケーション

- ・ 会員継続の呼びかけやメーリングリストやメールニュース等を活用する予定であったがほとんど活用することができなかった。
- ・ 会員の交流・支援者の拡大は来年度の課題として、取り組みを見直す。

③メディア等掲載によるPR

- ・ 丹波市市民プラザ「優良公民館表彰」、「議会の参観日」「社会的つながりプロジェクト」「丹波市市民プラザ大交流会」「企業ネットワーク」など、地元新聞社を中心に多くのメディアで紹介いただき、たんえんや事業のPRにつなげた。掲載記事は法人ウェブサイトにも掲載している (<https://tam-en.org/#about>)
- ・ 2022年度の主なメディア掲載：13件（昨年比+8）



(4) 組織運営体制の構築

①PR ツールの強化

- ・ ウェブサイトに事業や実績等の情報を積極的に掲載した。
- ・ 簡易的な法人パンフレットを作成（実績や事業内容や体制紹介）したが、本格的なパンフレットが作成できなかったため、来年度の丹波市市民プラザ3年レポート等と合わせて、改めて作成する。

②確実な事務局運営

- ・ 税務・労務等、必要に応じて関係機関に確認しながら、法律・制度に基づいた手続き・納付等を行った。
- ・ 多様な働き方を前提に、スタッフが役割発揮でき、効率的な業務を推進するために必要なICTツールをこれまで通り活用した。NPO向け支援メニュー（Microsoft、ストレージサービス、グループウェア等）も活用、コストダウンとともに、事務所等固定経費を持たず、人を資源として投資する経営を心がけた。
- ・ マイカー利用時のリスク対応、情報漏洩を防止するための規程等を整備し、それらに基づいているかどうか、面談や書面の提出等で確認した。
- ・ 市民活動支援、地域自治支援に関する研修に加え、指定管理者としても求められる研修として、今年度はホスピタリティ研修、人権研修等を実施した。

以上